



男と女が共に歩むための情報誌

Hi, あきしま

vol.35
2013.3



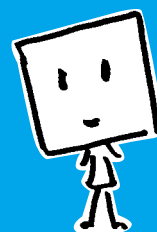
特集

男女共同参画社会実現の先に
～仕事と家庭、私たちの暮らしは
どう変わるのか～
男女共同参画講演会より

- DVのメカニズムと子どもへの影響
男女共同参画セミナー
- 男女共同参画豆知識
ワーク・ライフ・バランス

●BOOK GUIDE

『男も出番!介護が変わる』
『ふたりの子育てルール』 ほか



特集

昭島市男女共同参画都市宣言10周年記念講演会

男女共同参画社会の実現の先に

～仕事と家庭、私たちの暮らしはどう変わるのか～

講師 ▶ 杉尾秀哉さん(TBSテレビ報道局解説・専門記者室長)



平成25年1月20日に男女共同参画都市宣言10周年を記念して、TBSテレビ報道局解説・専門記者室長であり「みのもんたの朝ズバ!」などのコメンテーターとしてご活躍中の杉尾秀哉さんをお招きして、「男女共同参画社会」について講演を行いました。その内容の一部を紹介いたします。

女性を取り巻く環境これからは

1999年に男女共同参画社会基本法が制定され、地方自治の場で男女共同参画社会の実現に向けて、様々な事業が行われています。

男女共同参画社会の実現というのは、簡単に言えば、男女が性別に関係なく、あらゆる分野で平等に活躍できる社会を作っていくということなのです。

私がTBSに入社したのは1981年ですが、同期入社が30数人で、正社員は男性のみ、女性は契約社員かアルバイトです。女性の正社員はアナウンサー職を数年に1人の採用でした。

当時、女性は結婚したら家庭に入るのが当たり前でした。バブル経済でしたから、私も含めてですが、仕事ばかりして家庭を顧みない男性がほとんどでした。

私も子どもが2人いますが、仕事ばかりで家事も育児もしなかったですね。だから、今日、ここでお話しする資格は本来ないので……。

今は、当たり前のように女性が入社してきますし、報道の現場でも男性に負けない働きぶりの優秀な女性も多いです。男性社員も育児に参加し、育児休暇の取得も一般的になってきました。そういう意味では、女性を取り巻く環境も変化していると言えます。

日本社会が抱える課題

日本は2010年にGDP(国内総生

産)で中国に抜かれ、世界第3位(後退しました。このような日本に対して、ND C(新衰退国家)と揶揄する声もあります。また、イギリスの経済誌「エコノミスト」は、「先進国の中で一番惨めな2050年を迎えるのは日本だ」と指摘しています。世界に例を見ない人口減少に見舞われ、高齢化社会の到来は目前です。

日本の現在の人口は約1億2700万人です。一昨年(2011年)は20万人減少しましたが、まだまだこんなものはありません。このままの出生率だと、これから毎年80万人ずつ減少し続けます。これは福井県の人口に相当します。つまり、毎年、福井県1県分の人口が減り続けるというわけです。そして、5年後の日本の人口は約8600万人になり、現在から4100万人ほど減少します。これは首都圏の人口がそっくりなくなるといふことです。

その頃には、10人に4人以上が65歳以上の高齢者になります。これほどの超高齢化社会は歴史上ありません。人類が経験したことのない高齢化社会を日本がどのように克服するのか、世界は注目しています。

実はヨーロッパは、日本に先駆けて出生率の低下に見舞われました。その中で、フランスは出生率を回復させることに成功しました。フランスは、社会全体で子どもを育てるといふ発想のもと、行政が環境整備をしました。それに比べて、日本はひとりの女性に子育ての負担を負わ

せすぎています。

日本はこのまま人口が減り続けるとどうなるでしょうか。北海道大学の宮本太郎教授によると、日本の社会は、40〜50年前には労働者10〜11人で高齢者1人を支える胴上げ型でしたが、今は労働者3人で高齢者1人を支える騎馬戦型、そしてこのまま人口減少が続けば、労働者1人で高齢者1人を支える肩車型になり、社会保障制度の崩壊を招きます。

この崩壊を免れるためにはどうすればいいのでしょうか。

女性の力の活用

そこで、これまで社会で埋もれていた女性の力を活用するわけです。

アメリカのゴールドマンサックスが1999年に、「これからの日本は女性が消費だけでなく、労働や投資などの経済活動の担い手になっていく」というレポートを出しました。日本の経済や将来を牽引するのは女性だとして、「ウーマノミクス(女性経済)」という言葉を紹介しました。

また、NHKのクローズアップ現代で、IMF(国際通貨基金)のラガルド氏が、「女性がますます活躍しないと日本経済は救えない」と指摘しました。

ところが日本の社会は、女性の力を活用しきれいていません。

2010年版の男女共同参画白書によると、女性の雇用者はここ20数年で1.5倍に増えているが、非正規雇用が多く、収

入は男性の7割程度だと言われています。

どうして、このような賃金格差があるのでしょうか。それは、日本女性は30代に婚姻、出産、子育てによる就業の中断があるからです。労働力率を見ると、第一子の出産で女性の6割は離職し、子どもが大きくなり、教育にお金がかかるようになると就業率が増加するという、M字のカーブを描いています。このM字の窪んだ部分は、本来なら働ける人たちです。つまり、社会の中で埋もれている労働資源で、この女性の力を活用すれば、労働人口の減少を緩和できると見られています。

就業の中断を減らすためには、何が必要でしょうか。待機児童の解消など女性が継続して働きやすい環境を整えること、それを率先して行う指導的立場に立つ女性を増やすこと、また、それを受け入れる男性側の意識改革が必要であると考えられます。

先ほど、フランスは環境を整備することで出生率が回復したとお話しましたが、例えば3〜6歳までの保育施設の入所率を見ると、日本の34%、アメリカの70%に対して、フランスは99%です。つまり、ほとんどのお母さんが子どもを保育施設に預けて働いているのです。

共働き率が高いと、経済的余裕があるので、出生率も高くなる傾向にあり、例えば福井県では、女性は出産後、祖父母に子どもの面倒を見てもらい、外に働きに出るのが一般的になっています。そし

て、福井県の出生率は全国で常に上位にランクインしています。

しかし、首都圏では祖父母と同居という環境にない家庭が多いですから、行政が支援する必要があります。もちろん、出産・育児休暇制度など、少しずつですが制度も整ってきていますが、それだけではだめなんですね。

過去のモデルから新たなモデルへ

男女共同参画とは経済問題だけではなく、私たちの人権、生き方、幸せ、生きがいにつながってくる問題です。

これまでの日本社会は、企業が男性の雇用を安定させて、家族を養うという男性型モデルでした。しかし、右肩上がりの経済成長はもう終わり、正社員であっても、その収入だけで妻子を養える人は少なくなっています。

実は、この男性型モデルは、男性自身にも過度の負担がかかっています。2012年には約2万7000人の方が自殺で亡くなっています。そのうちの7割が男性で、理由は経済問題が多数を占めています。平和で豊かな日本で、これほど多くの方が自殺で亡くなっているという現実からも、従来の男性型モデルが限界にきていると言えます。

このことに気がついたのは、私自身の海外赴任がきっかけでした。

私は、1998年からアメリカのワシントンに駐在し、当時、中学1年生と小学2年生の子どもたちも現地の学校に通

うことになったんですが、宿題が多くてレベルも高かった。だから、私も仕事から早く帰って手伝いました。毎日、子どもたちと宿題をして、休みにも家族と一緒に過ごすようになって、初めて子どもたちとコミュニケーションをとることができたのです。子どもに関わるのが楽しく、子どもを通してアメリカ社会が見えたりして、自分の世界が広がっていきました。

この体験を通して、仕事だけの男性型モデルではなく、ワーク・ライフ・バランス型へシフトする必要性を感じました。



「生き方」の物語を変える

宮本教授は話の中で「これまでの日本

の社会は男性には会社の物語、女性には家庭の物語があった」と言っています。これまではそれぞれの物語の中だけで生きることを余儀なくされてきましたが、これからの日本社会は変わっていかねければなりません。一つの物語で疲れたらもう一つの物語で英気を養う。一つの物語で得たエネルギーをもう一つの物語に活かすなど、単線型ではなく複線型の生き方を選択しなければなりません。

東日本大震災では、あれだけの災害に見舞われながら、冷静に規律と秩序を保ち続けていた被災者の方々の中に日本人の本当の強さを見たとき、欧米メディアから称賛の念で報道されました。

原発事故の影響で、節電し、照度も20%ほど落ちました。それによって気づいたのはそれでも十分だということ、電気を煌々と灯し豊かさを享受していると勘違いしていた、必要なのは物質的な豊かさではなく精神的な豊かさであると気づかされました。震災で日本人の意識が変わりました。心の変革が求められています。男性ももっと家族や地域に関わった方がいいんですよ。そういう意識改革が必要なんです。

男女共同参画社会は、女性の社会進出のためだけではなく、男女を問わず、本当の幸せを実現するために必要です。男女共同参画社会の実現こそが、閉塞感にあふれている日本の現状を打開し、心のもやもやを打破するカギになるのではないかと思います。

「男女共同参画社会の実現こそ、日本に蔓延する閉塞感を打破するカギになります。」杉尾秀哉氏のこの提言から、日本社会の将来に対する期待と希望が強く感じられます。

杉尾氏は講演の中で、女性が結婚、出産を経ても継続して働ける環境の必要性を特に強調されました。一例として、フランスでは3～6歳児のいる母親のうち99%が子どもを保育施設に預けられるなど保育環境を改善したことにより、出生率が上昇したことを挙げられ、日本でも待機児童の解消など行政レベルの支援が必要であると提言されました。

ところが、待機児童の解消は遅々として進んでいません。2月の新聞記事によると、都内の或区では保育所不足が深刻化しており、4月以降、希望者の三分の二に当たる約1,800人が認可保育所に入所できないそうです。少子化が進む現状に対し、認可保育所などの設置に二の足を踏む自治体の姿勢が見え隠れします。

また、国立社会保障・人口問題研究所の資料によると、第一子出産後に退職する女性の割合は、男女雇用機会均等法が施行された1986年に37%であったのが、2009年には44%に増加しています。一方、育児休業を取得して就業を継続した割合は、同じ時期に9%から24%に上昇しています。つまり、育児休業制度の整備が進み、利用する女性が増えている一方で、就業を継続できず、退職する女性も増えているという傾向が見られます。同研究所の調査結果では、妊娠・出産後に退職した女性の4人に1人が「続けたかったが仕事との両立が難しかった」と回答しています。そして、難しかった理由として、「職場に支援する雰囲気

がない」ことが挙げられています。

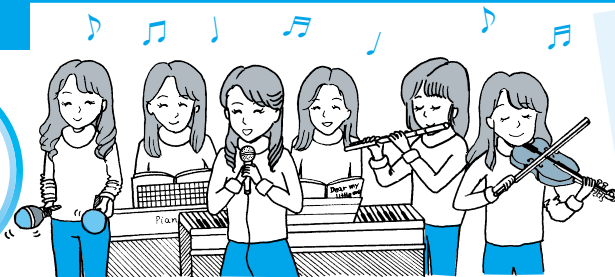
日本の一般的な企業では長時間労働を余儀なくされ、仕事と家庭の両立が困難な実態があります。このような職場環境では、女性が子育てをしながら頑張っているとしても、時間的制約のため責任のある仕事を任せにくく、結果として評価が低くなりがちです。ライフステージに合わせた柔軟な働き方は、日本では難しいのが現状です。

日本人女性が働き続けるには、託児問題の解決と職場の理解という高いハードルをクリアしなければなりません。日本人男性と結婚し、日本で子育てしながら働いているフランス人女性、ミュリエル・ジョリヴェ上智大学教授は、著書『子供不足に悩む国、ニッポンーなぜ日本の女性は子供を産まなくなったのか』の中で、日本人女性は出産と同時にキャリアが途絶えて社会から切り離され、「育児牢獄」に投げ込まれると指摘しています。この一言こそ、日本人女性を取り巻く環境の過酷さを如実に表しているのではないのでしょうか。

2006年をピークに日本の総人口は減少しはじめています。これは、日本が先進諸国の中でいち早く、まったく新しい段階に入ったということを強く示唆しています。個人的な生活や会社、社会や経済などについて、これまでのやり方の延長でやっていけるのか、それともこれまでとは違うやり方を見出さなければならないのか。私たちはその岐路に立たされています。今こそ皆が立ち止まって考えるべき時期なのではないのでしょうか。杉尾氏の講演を拝聴し、そう痛感しました。

T.H.

オープニングコンサート



♪無理をしないで
～take it easy(抜粋)
余裕がなくて ゆとりがなくて
毎日が嵐のように過ぎていくのよ
怒ってばかり 羨んでばかり
自分が情けなくて 嫌になるの
ああ 選んだ道に 自信を持って
今を精一杯 生きれば良い
辛い時間も 宝物なの
気づくのはずっと 先だけ

講演に先駆けて、昭島市の音楽ユニット「ママRing」によるオープニング演奏が行われました。

ママRingは主婦6人のユニットで、現在、児童センターの「おんたいていむどれみ」(親子向けの音楽プログラム)で活動中。

毎回多くの反響を呼んでいます。今回は、来場の皆さんと一緒に、童謡「ふるさと」を歌った後、オリジナルの子育てソング「無理をしないで～take it easy」「Dear my little one」を歌っていただきました。ピアノやバイオリンの美しい音色にあわせて、子育て中なら誰もが経験するような心の中のわだかまり、葛藤、子どもへの愛情を歌う、ボーカルの伸びやかな歌声が会場を盛り上げていました。



Hi, あきこちゃんの男女共同参画マメ知識

Takako.



ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)
男女がともに仕事と家庭生活・地域生活等とのバランスをとり、生涯を通じて充実した生活を送ることができるようにする。



ワーク・ライフ・バランスを実現させよう!

男性も家事や育児を分担することで、女性も仕事と生活を楽しめるようになります。一人ひとりの意識が変われば、仕事と家庭生活のバランスが図れる日も必ず来ます。まずは家庭の中から、ワーク・ライフ・バランスを考えていきましょう!



DVのメカニズムと子どもへの影響

DVのこと、子どものこと、一緒に考えてみませんか？

講師：松本和子さん(社会福祉士・精神保健福祉士)
NPO法人 女性ネットsaya-saya 代表



日本ではまだ遅れているDV問題。女性の問題だけではなく、男性の問題でもあります。
人と人が対等なコミュニケーションで解決する、文化スキルを作っていかなければなりません。

DVのメカニズム

「家庭内の暴力は、見えない強制収容所である」と言った専門家がいます。

DV加害者は、付き合い始めはとてもいい人ですが、家族になると暴力を振ります。被害者の心の中はトラウマだらけで、相手の顔色ばかり見ていて、自分の欲求が分からなくなります。「早く帰って食事の用意をしなければ怒られる」「私がちやんとやれば夫は優しくなる」「自分が悪いから彼は暴力を振るう」などという服従関係ができて、抑圧されていきます。

その中にいると、加害者は神のように自尊心が肥大化していきます。「馬鹿だな、だからおまえはダメなんだ」と繰り返し言われ、被害者は力を奪われて、自尊心が低くなっていきます。

加害者は殴ったり蹴ったりした方が物事の解決が早いと思っっていますし、「自分の稼いだお金は自分のものだ」と、収入を夫婦の共有財産としてみなさず、経済的DVも起こります。夫の収入を知らないという女性も多くいます。また、その多くが合意のないセックスの強要は、強姦であることに気づいていません。

暴力はいつ起こるか分かりません。まるでジェットコースターのような関係で、鉛(優しさ)と鞭(暴力)の世界があり、これを繰り返すサイクルができます。この循環からは、なかなか抜け出ることができず、しだいに無条件に服従する

ようになります。服従は個人の魂の死を意味します。そして、その中にいる子どもは、確実に学習しているのです。

暴力のサイクル

(私は愛されている?)

レノア・ウオーカー氏によるDVのサイクル



DVは児童虐待

DVを見たり、聞いたりしている子どもへの影響は、思った以上に大きいものです。

子どもは大人をよく見ています。隣の部屋で怒鳴っている両親の喧嘩をわざと関係ないように振舞っていますが、聞かないように必死で耐えていて、その原因は自分にあるのではないか、何がいけなかったのかと混乱します。

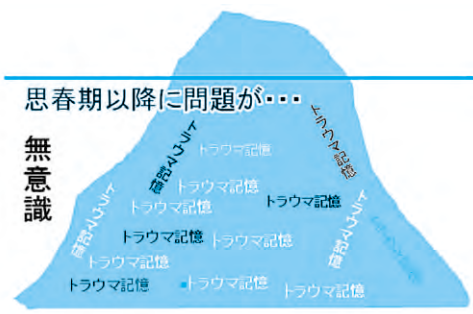
その影響は、DVの環境を離れたあとまで長く続くことが多く、またDVのある家庭は、子どもへの直接的な虐待の可能性も高くなります。シェルターに避難させただけでは解決せず、その後も影響し続けます。

DVを受けた被害者の

子どもたちの心理状態

子どもはあらゆるものをスポンジのように、周りの環境から吸い取ります。一番影響が大きいのは、子どもたちの肥大化した万能感(親を助けられるのは自分だ)で、親をケアすることで、子が子ども時代を生きられなくなることです。いわゆるアダルトチルドレンは、たくさんのトラウマ(傷ついた子ども時代)を持っていて、これらが癒されないことであるような影響を及ぼすのです。

子どもは、元気に見えるけれど?



子どもの心の回復

子どもの心の回復は、安心、安全、尊重される環境が一番です。子どもを評価の対象と考えず、気持ちをきちんと述べ、「あなたがどのような子どもでも、あなたの存在そのものが大事」というメッセージを伝えることが大切です。

Let's check!

DVチェックリスト



「彼はときどき暴力を振るうけど、ふだんはとても優しいの。でも、これってDVなの？」
「喧嘩をしたとき、思わず手をあげてしまった。これはDVですか。」
これらは、実際によく聞かれる声です。親密な関係になるほど、支配や暴力が見えにくくなっていきます。下記のチェックリストで、ご自身をチェックしてみてください。



☆体験したことのある項目の にチェックを入れてください。



相手編 (私はDV被害者なの?)

- 「バカ」などと人を蔑視するような言い方で呼ぶ。
- 他の用事で会えないと、自分を最優先にしないと言ってふてくされたり、怒ったりする。
- 頻繁に携帯に電話してきて、あなたがどこで誰と話したり会ったりしているかチェックする。
- 怒ったときに物にあたるなど、時々怖いと感じるような態度・行動をする。
- 怖い態度や行動をしたあと、謝ることが多い。
- やさしいときと、いじわるな態度のときとが極端。
- 喧嘩になると、あなたが怒らせるようなことを言ったからだと責める。
- 何か話をしようとする、話をそらしたり、話をちゃんと聞いてもらえないことが多い。
- よく約束を破る。
- 携帯の男(女)友だちのメールやアドレスを消せと命令したり、消してしまったりする。
- 「僕(私)のことが好きならいいだろう」と気が進まないことをさせる。
- あなたの意見は尊重されず、勝手に決められることが多い。

自分編 (私ってDV加害者?)

- 相手が自分の意見に従わないと、いらいらしたり怒ったりする。
- 相手が他の人とも仲良くしているのを、嫉妬して責める。
- 相手がどんな人とどんな話をしているのか、とても気になって問い詰める。
- 相手に何をするか、誰と話すか、どこへ行くか、何を着るかなどについて指示し、それは相手のためだと思っている。
- 自分がいらいらしていることを、相手のせいだと責めたことがある。
- 腹を立てたとき、相手の目の前で物をたたいたり、壊したり、投げたりする。
- 腹を立てたとき、相手の腕や肩をつかんだり、押ししたり、たたいたりしたことがある。
- いつも相手をリードしなければと思っている。
- ふたりのことでも、相手の考えや希望よりも、自分ひとりの考えで決めることが多い。
- 相手は自分より劣っていると思う。
- 付き合っている相手は「自分のもの」だと思っている。

1つでもチェックが入った方は、DVを受けている可能性があります。

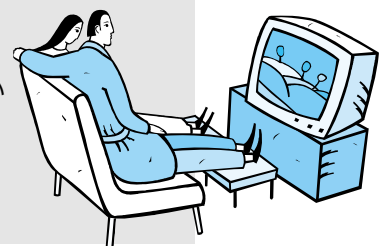
1つでもチェックが入った方は、自身の態度、行動を見直しましょう。

引用参考文献:アウェアHP 「デートDVチェックリスト」

上記のチェックリストに1つでも当てはまる方は、DV被害者や加害者である可能性があります。リストの中には、直接身体的暴力ではないものも多くあり、ただ思ったり、責めたりしただけでもDV?と、反感を持つ方もいらっしゃるかもしれません。

確かに「思うだけ」では暴力にはならないかとは思いますが、「思う」という強い信念は、しばしば「行動」となって現れます。

「自分だけのものになって欲しい」という強い思いが、力と支配(DV)となる可能性にあるのです。



内閣府 男女共同参画局

DV相談ナビ

ここにでんわ

0570-0-55210



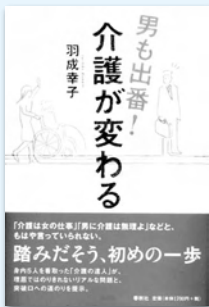
ナビダイヤルでお近くの相談窓口をお答えします。



BOOK GUIDE

今年度購入した本は、男女共同参画ルーム「おあしす」にあります。
問合せ先 企画政策室 042-544-5111 内線 2373

「介護の達人」が教える初めの一步!



『男も出番! 介護が変わる』

羽成幸子 著
春秋社 2012年7月

著者は、祖父母や父母など家族5人の介護経験を持つ「介護の達人」で講演活動でも知られている。
「妻や娘が当たり前のよう家族を介護していた」のは過去の話で、今や誰もが介護に関わらざるを得ない状況になっているからこそ「男も出番」だそうである。いま最も必要なのは新しい介護の心得や絶望から抜け出す発想の転換などを教えてくれる。家族と向き合い、介護を意識して介護に取り組む男性の、初めの一步を応援する本である。

共働きの子育ては楽しい!



『ふたりの子育てルール』

「ありがとう」の一言から始まるいい関係ー

治部れんげ 著
PHP研究所 2012年5月

経済記者で二児の育児に追われる著者が、子育てに関する夫婦の協力体制やコミュニケーションの必要性、また望ましい職場のあり方についても語ります。
「育児は夫婦の共同責任を共通認識にする、父親の育児休業取得を前提にする、家庭責任が片方だけに重くならない、お互いが家計責任と家庭責任の両方をもつ」等、10の共働き子育てハッピー・ルールには新しい夫婦のあり方が提示されている。夫婦が協力して子育てをする「知恵と勇気」が詰まった一冊である。

管理職のあり方!



『ワーク・ライフ・バランスと働き方改革』

佐藤博樹、武石恵美子 編著
勁草書房 2011年3月

本書は大学の研究者や企業の実務担当者との共同研究による成果をまとめ、働き方の有るべき方向を提示し、データ分析や海外との比較を通し、日本における職場での働き方の特徴やワーク・ライフ・バランス(WLB)を阻害する要因を示している。WLB実現には管理職を含めたすべての社員が、時間意識の高いメリハリのある働き方に変わる必要がある。そしていつでも残業が出来る社員像から、時間制約のある社員像へと転換した働き方の改革が不可欠であり、その鍵は管理職の職場マネジメントにあると言っている。

男女1人ひとりが生き生きと暮らす社会!



『男女共同参画社会と市民』

藤原千賀 著
武蔵野大学出版会 2012年9月

本書は一冊で男女が共に暮らし、働き、学び、決定する社会のあり方がわかる本である。その内容は、統計資料を参考に教育、学習、就労、政治、家庭などの分野で一人ひとりの市民がジェンダー規範から自由で主体的な選択と活動ができる社会を実現するためのとるべき行動を考察し、社会システムのあり方についても言及している。男女共同参画社会の歴史と将来への展望までが明らかにする。

その他、購入した本

- ◆『メディアとジェンダー』 国広陽子、東京女子大学女性学研究所編 勁草書房 2012年1月
- ◆『揺らぐ男性のジェンダー意識』 一仕事・家族・介護ー 目黒依子、矢澤澄子、岡本英雄編 春秋社 2012年7月

INFORMATION

一年を振り返って

編集委員から一言

◆編集委員になって二年目、男女共同参画の事が少しずつ分かってきました。取材を経験したり、イラストを描いたり、楽しい一年でした。 池上孝子

◆編集委員をしていると、男女共同参画とは、一部の特別の人たちのためではなく、ごく身近な当たり前のことなのだ実感します。いろいろ勉強になりました。 渡邊啓子

◆漠然としていた男女共同参画に対するイメージが明確になりました。子育て中の方々だけでなく、もっと若い方々にもぜひ知っていただきたいです。 長谷部高史

女性悩みごと相談 無料

家族関係やからだ、心の悩みなどはありませんか? 専門の女性カウンセラーが相談に応じます。お気軽にご利用ください。

相談日 毎週水曜日午後1時~4時
(祝日・年末年始は除く)
相談時間 一人50分まで
場所 市役所3階 小応接室
相談方法 電話または面接
利用方法 予約制 TEL544-5130

